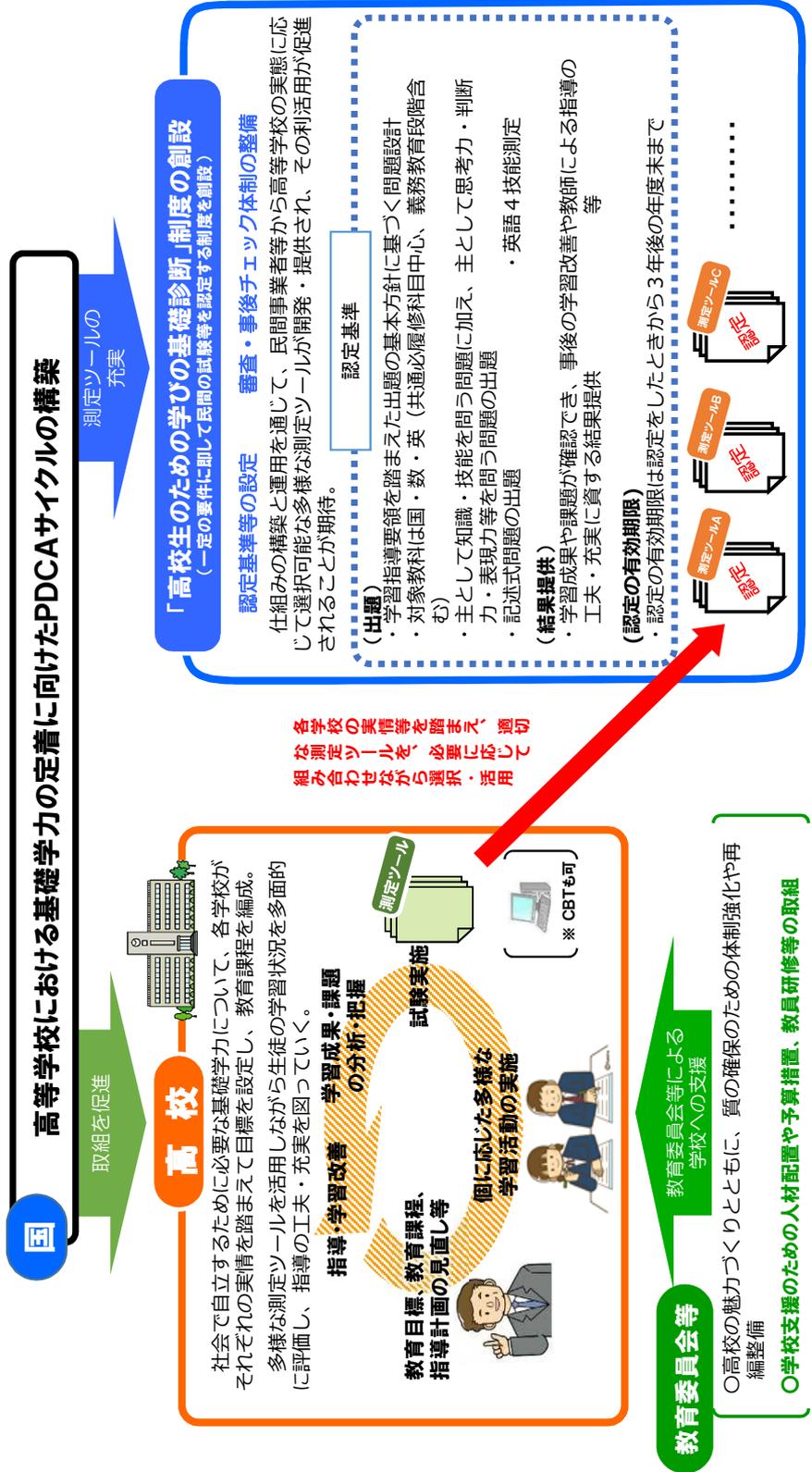


## 「高校生のための学びの基礎診断」に係る経緯について

基礎レベルのテスト	<p>教育再生実行会議第4次提言（平成25年10月）</p> <p>○「到達度テスト（基礎レベル）（仮称）」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・共通的な学習の達成度を客観的に把握し、学校の指導改善や生徒の学習改善に活用する。</li> </ul>	<p>中央教育審議会答申（平成26年12月）</p> <p>○「高等学校基礎学力テスト（仮称）」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生が基礎的な学習の到達度の把握、自らの学力を客観的に提示できる仕組みとする。</li> </ul>	<p>高大接続システム改革会議最終報告（平成28年3月）</p> <p>○「高等学校基礎学力テスト（仮称）」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得とそれによる高校生の学習意欲の喚起を図る仕組みとする。</li> </ul>	<p>「高大接続改革の進捗状況について」（平成29年5月）（報道発表資料）</p> <p>○「高校生のための学びの基礎診断（仮称）」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得と「それによる高校生の学習意欲の喚起」を図る仕組みとする。</li> <li>・「テスト」という名称は受検者を「選抜」する印象を与えるため、導入目的や機能等を早期に正しく理解いただくため呼称を「テスト」から「診断」に変更する案とする。</li> <li>・実施内容や方法等について論点を整理し、実施方針（検討素案）を策定する。</li> </ul>	<p>「高校生のための学びの基礎診断」実施方針（平成29年7月）</p> <p>○「高校生のための学びの基礎診断」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得と「それによる高校生の学習意欲の喚起」を図る仕組みとする。</li> </ul>	<p>「高校生のための学びの基礎診断」の認定基準・手続き等について（平成30年3月）</p> <p>○「高校生のための学びの基礎診断」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得と「それによる高校生の学習意欲の喚起」を図るため、高等学校における多様な学習成果を測定する仕組みとする。</li> </ul>
実施体制	<p>・民間の検定や各種試験との相互補充により、生徒の学習習慣の定着を図る方法を模索する。</p> <p>・具体的な実施方法（教科・科目や出題内容等）や実施体制、実施時期、名称、制度面・財政面の整備等について、高等学校における教育活動に配慮しつつ、関係者の意見も踏まえ、中央教育審議会等において専門的・実務的に検討する。</p>	<p>・高等学校と密接に連携・協力して実施するための具体的な実施体制等を検討する。</p> <p>・英語等は民間資格・検定試験も積極的に活用する。</p>	<p>・実施に当たっては、可能な業務は積極的に民間事業者の知見を活用する。</p> <p>・英語については、高校生が受検する民間の資格・検定試験が既に複数種類存在しており、これらの資格・検定試験を積極的に活用する。</p> <p>・テストの妥当性・信頼性、受検機会の確保、安定性・継続性等を踏まえつつ、民間の具体的な連携の在り方を検討する。</p>	<p>・大学入試センターで直接実施とする（a）案、公的な統括・関与の下に民間事業者等が問題を作成し実施とする（b）案について、継続性・安定性を担保しつつ、民間の知見・ノウハウを最大限活用する方策等について検討した結果、民間事業者からの申請に基づき、基準に適合するものについて認定する仕組みとする。</p> <p>・認定の基準や審査方法については、関係者の意見や専門家の検討を踏まえて決定する。</p>	<p>・文部科学省において一定の要件を示し、それに即して民間の試験等を認定する仕組みとする。</p> <p>・高等学校における多様な学習活動を念頭に、民間事業者等から高等学校の実態に応じて選択可能な多様な測定ツールが開発・提供され、その利活用が促進されることを目指す。</p>	<p>・高等学校段階における生徒の基礎学力の定着度合いを測定する民間の試験等を文部科学省が一定の要件に適合するものを認定する仕組みとする。</p>
大学入試との関係	<p>・各大学の判断で推薦入試やAO入試にも活用可能とする。</p> <p>・進学時や就職時の活用は、基礎学力の証明や把握の方法の一つとして、その結果を大学等が用いるのも可能とする。ただし、進学時への活用は高等学校段階における学習成果を把握するための参考資料の一部とする。（進学時への活用は推薦・AO入試を念頭に置いている。）</p>	<p>・進学時や就職時の活用は、基礎学力の証明や把握の方法の一つとして、その結果を大学等が用いるのも可能とする。ただし、進学時への活用は高等学校段階における学習成果を把握するための参考資料の一部とする。</p> <p>（進学時への活用は推薦・AO入試を念頭に置いている。）</p>	<p>・大学入学者選抜や専門学校等への進学、就職等において、過度に利用された場合には、高校生活へ悪影響を与えおそれがあることも踏まえ、平成31年度から平成34年度までは「試行実施期」と位置付け、この期間は大学入学者選抜や就職には用いず、本来の目的である学習改善に用いながら、その定着を図る。</p> <p>・35年度以降の大学入学者選抜や進学・就職等への活用方策については、この仕組みの定着状況を見つつ、高校生の学習意欲や進路実現への影響等に関するメリット及びデメリットを十分に吟味しながら、高等学校や大学等、企業をはじめとする関係者の意見も踏まえ、試行実施期を通じて、更に検討を行う。</p>	<p>・将来的な基礎テストの結果活用に関し、学力の定着度合いが認定され、対外的な証明について改めて検討する。</p>	<p>副次的な利用については、認定制度の着実な定着を図りながら「最終報告」を踏まえ、高校生の学習意欲や進路実現への影響等に関するメリット及びデメリットを十分に吟味しながら更に検討する。</p>	<p>副次的な利用については、実施方針に基づき、本制度の着実な定着を図りつつ、高校生の学習意欲や進路実現への影響等に関するメリット及びデメリットを十分に吟味しながら具体的な検討を実施する。</p>

# 「高校生のための学びの基礎診断」制度

- 平成28年3月の高大接続システム改革会議「最終報告」を踏まえ、有識者による検討・準備グループ等において具体的な検討を推進。同グループによる「論点整理」（平成29年3月）や試行調査（平成29年1～3月）の結果を踏まえ、平成29年7月に「高校生のための学びの基礎診断」実施方針を策定。
  - 「高校生に求められる基礎学力の確実な習得」と「学習意欲の喚起」を図るため、**文部科学省が一定の要件を示し、民間の試験等を認定する制度を創設し、多様な民間の試験等（測定ツール）の開発・提供、その利活用を促進。**それにより、**高校生の基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの取組を促進。**
  - 「高校生のための学びの基礎診断」検討ワーキング・グループにおける専門的な検討を加え、高校・教育委員会等の関係者、民間事業者等の意見やパブリック・コメントによって得られた意見等を考慮しつつ、**平成30年3月に「『高校生のための学びの基礎診断』の認定基準・手続等に関する規程」を策定。**
  - 平成30年12月に初めて測定ツールの認定を行い、平成31年度から本格的に利活用開始。**
- ※学校や教育委員会等において選択・利活用について検討し、次年度の年間指導計画等に反映。



# 「高校生のための学びの基礎診断」認定ツール一覧 (平成30年度申請分)

認定期間：2022年3月31日まで

対象 教科	団体名	測定ツールの名称	基本 (※ 1)	標準 (※ 2)
国語	日本漢字能力検定協会	文章読解・作成能力検定 4級	●	
		文章読解・作成能力検定 3級		●
		文章読解・作成能力検定 準2級		●
	ベネッセコーポレーション	Literas 論理言語力検定 3級	●	●
		Literas 論理言語力検定 2級		●
		実用数学技能検定 3級	●	
数学	日本数学検定協会	実用数学技能検定 準2級		●
		数検スコア基礎診断 数I・数A (項目別診断)		●
		数検スコア総合診断 数I・数A		●
英語	ベネッセコーポレーション 教育測定研究所	ベネッセ数学理解力検定		●
		英検IBA TEST C 4技能版	●	
		ケンブリッジ英語検定 A2 Key for Schools (PB/CB)		●
		ケンブリッジ英語検定4技能CBT (Linguaskill)		●
		英語CAN-DOテスト レベル2	●	
		英語CAN-DOテスト レベル3		●
ベネッセコーポレーション・カウ ンシル	ベネッセコーポレー ション	Aptis for Teens (中高生向けAptis)		●
		GTEC Advancedタイプ・Basicタ イプ・Coreタイプ	● Core	● Basic Advanced

対象 教科	団体名	測定ツールの名称	基本 (※ 1)	標準 (※ 2)
3教科	学研教育みらい	基礎力測定診断 ベーシックコー ス	●	
		進路マップ 基礎力診断テスト	●	
		進路マップ 実力診断テスト		●
	ベネッセコーポレーション	スタディーサポート αタイプ、β タイプ、θタイプ		●
		スタディープログラム		●
		ベネッセ 総合学力テスト		●
	リクルートマーケティング パートナーズ	スタディサプリ 学びの活用力診断 I・II～ペー シック～	●	
		スタディサプリ 高1・高2 学びの活用力診断～スタンダー ド～		●

※1：義務教育段階の学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ

※2：高等学校段階の共通必修教科目の学習内容の定着度合いを測定することを重視したタイプ

「高校生のための学びの基礎診断」の利活用の状況等 調査結果  
(令和元年 5 月現在)

1. 有効回答数

学校数：4,283 校(国立 16 校、公立 3,235 校、私立 1,032 校)

【参考】学校基本調査(令和元年 5 月 1 日現在)の高校数(中等教育学校含む)

学校数：4,941 校(国立 19 校、公立 3,582 校、私立 1,340 校)

2. 学校の状況

1-1 令和元年度における「基礎学力の定着」への取り組み

(認定ツール利用予定の有無及び認定ツールを利用しない場合の対応予定)

		計	国立	公立	私立
今年度中に「基礎診断」認定ツールを利用する予定がある		3,030	7	2,360	663
「基礎診断」認定ツールを利用する予定がない		1,253	9	875	369
	学校設置者が作成した測定ツールを利活用する予定	215	0	144	71
	国が認定した民間ツール以外の民間のツールを活用する予定	380	1	221	158
	その他※	612	5	502	105
	無回答	46	3	8	35

※「その他」には、

日常の授業及び定期テスト等の学校活動を通して基礎学力の定着を図る。

現在の教育方法で十分である。などの回答があった。

